

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学研究科
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 総合心理学専攻学校教育学領域の適正な所属について、大学・教育学研究科とともに検討を開始し、2013年度までに一定の合意を得る。	→検討委員会の設置。検討の記録。	C
2. 前期課程・後期課程ともに優秀な准教授からの任用を促進する。	→准教授の前期課程・後期課程への任用までの年限。准教授でそれぞれの課程に任用された教員の人数。	B
3. 2010年度以降の昇任人事について、審査期間中（約1ヶ月）、全教員がいつでも業績を見ることができるよう制度化する。	制度化の記録と実施実績	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

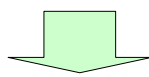
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目4.0.1	(現状説明) 教育研究組織は、学問原理や研究方法、対象、分野の近接性によって組織化されている。近年の学際的な研究の必要性、並びに学部組織との整合性から、2007年度に改組し、前期課程は3専攻12領域、後期課程は3専攻11領域に再編されている。
☆ 小項目4.0.2	(現状説明) 教育研究組織の点検は必要であるが、2007年度に再編したばかり（2009年度が完成年度）であり、教育の一貫性や研究の継続性などに鑑み、その後組織的には検証は行っていない。ただし、前期課程の学校教育領域については、より適切な所属を摸索すべきである。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目4.0.1	
★ 小項目4.0.2	学校教育学領域の所属
その他	



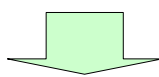
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目4.0.1	
★ 小項目4.0.2	検討組織が学長の下に置かれようとしているが、実質的な議論が開始されるように働き掛ける。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目4.0.1	
★ 小項目4.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目4.0.1	
★ 小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	すでに制度化した事項 (昇任人事の際の業績の公開) もあるが効果が上がっているかどうか、性急な評価はできない。組織の問題は長い目で見ていく必要がある。
--------------	---

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】	○学校教育学領域の在り方については、今後、実質的な審議が進むことが求められます。
【学内委員】	○2009年度に設定された目標は、概ね適正なものと思われます。目標の達成のためのさらなる努力が求められます。教育研究組織の点検と改善の努力はつねに行わなければなりません。 ○各取り組みを評価します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし	
------	--

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>


<個別的な指標>
